

哲学カフェ de ぎふ

せんしゅう

千秋まちかど文庫 通信



運営委員会発行 (記録:安藤彰浩、編集:吉田千秋・中川健史) (主宰)吉田千秋 090-7917-9602

《参議院選挙の結果から何を学んだのか?》

問題提起・吉田千秋

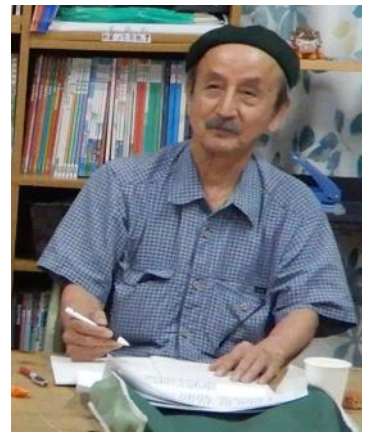
- *8月はこれまで、平和または戦争関連の問題をテーマとして取り上げて来ました。徴用工問題を廻って険悪な状態にある日韓関係の問題も議論したいところですが、過去に取り上げたことがあるので、今日はまだ記憶に新しい先月の参議院選挙の結果をどのように評価することができるかについて意見交換したいと思います。
- *本題に入る前に、最近の気になる出来事についてふれます。先日、名古屋で開催された国際芸術祭「あいちトリエンナーレ」で、その企画展「表現の不自由展・その後」が、開催まもなく8月3日で中止される事件がありました。
- *ボクは毎年夏、岐阜で開催される平和美術展に、20年余り実行委員会会長として関わってきたので、この問題は他人事ではありません。ぎふ平和美術展は今年50周年を迎え、17日の記念行事で、「芸術は平和をつくることができるのか?」のシンポジウムを開催することになっています。パネリストとして憲法学者で、特に芸術関連法を専門とする志田陽子さんを招いていて、表現の自由の重要性についてお話し頂きます。
- *この企画展は、表現の自由の意味を考えるために、あえて他の美術展で撤去された作品を集めて展示し、大変時宜を得た企画でした。私は河村名古屋市長の中止要請があった翌日、美術展を観ました。これを脅迫に屈して中止にすることはあってはならないことです。さらに大きな問題は政治的介入があったという事実です。河村名古屋市長は、「国民の感情を傷付ける」と言って、慰安婦少女の作品を槍玉に上げて展示会の中止を求めました。大阪維新の会代表の松井氏の働きかけがあったようです。
- *また内閣官房長官の菅氏が補助金が使われるものに政府が意見を述べることは当然として、政治介入を正当化して不自由展の中止を支持する発言をしました。公的支援は、「支援しても口は出さない」の原則が守られなければなりません。大会実行委員長の大村愛知県知事が憲法21条を引き合いに出して、河村氏の中止要請を憲法違反と批判したことは評価できますが、芸術監督の津田

氏と共に、脅迫電話や京アニ事件の様なテロ予告があったことを理由に、作品を出展している作家たちの意見を聞くことなく、展示会の中止を決めたことは問題です。

- *日本社会には今こういう形での、自由に表現したり、意見を言ったりすることが妨害される状況があいついでいます。この「哲学カフェ」や、「サロン9条」や「名古屋哲学セミナー」等、形の違う意見交換の集まりに関わっていますが、自由に意見を出し合っ、本物を見つけることが本当に重要な事だと思います。一方的に判断せず、他人の意見に耳を傾けることを大切にしなければなりません。

- *今日のテーマに戻ります。参院選の結果から何が言えるでしょう。選挙前に争点となっていたのは、改憲勢力である大阪維新の会を含めて与党が参議院の3分の2を確保できるかということでした。しかし議席数3分の2の確保はできませんでした。安倍首相は常々オリンピックの年である来年2020年に改憲を実現するといってきましたが、これは危うくなりました。与党は参院の過半数を制して、勝利した様に見えますが、よく見ると野党共闘が実現した一人区の重要な選挙区(米軍の基地移転問題で揺れる沖縄、イージスショアの配備が予定されている秋田、等)で自民は議席を確保することができませんでした。岐阜では野党の共闘が実現しましたが、準備不足が否めませんでした。候補者選びが遅れて支持の訴えが浸透する時間がありませんでした。

- *選挙結果をデーターで吟味すると色々のことが見えて来ます。与党自民は、実際には投票数、得票率を下げています。自民は全体の議席の半数を獲得しましたが、投票率が参院選で二番目に低い48%で、自民の獲得票数



は有権者全体の20%程に過ぎません。積極的に支持する人が少なくても選挙に勝って政権を維持することができる状況は大きな問題です。投票率の低さが気にかかることですが、それ自体が安倍政治の結果だと認識する必要があります。

- *また国民の大多数が反対している消費税の引き上げ時期が迫っていますが、これが参院選で大きな議論になることはありませんでした。直前に財務省内部の報告で、定年後2000万円の蓄えが必要であるとされていることが話題となりましたが、年金問題が争点になることもありませんでした。憲法改正を掲げながら、憲法問題が公の場で議論されることもありませんでした。政権は国民的議論を避けて選挙戦をやっているというしかありません。これでは投票率が高くなることを期待することはできません。選挙後の世論調査で43%の人が投票しても「政治は何も変わらない」と答えている事実は特に気になる問題です。さらに18～19歳の若者の投票率が31%と際立って低いことも検討を要する問題です。せつかく与えられた意思表示の機会が活かされていないことは残念です。
- *若者だけではありませんが、多くの日本人が意見表明を尻込みする傾向が目立つのは、主権者教育の問題が反映していると思います。教育における政治的中立の原則は、かなり誤って理解されています。教える立場の教師が周りの批判をはばかり、政治に関して何も言わない

意見交流

- * (昭和20年代前半生まれ)よく若者の政治に対する関心が薄いと言うが、自分の過去は大して変わらなかった様に思う。政治にどういう意識を持っていたか全く記憶がない。ただ子どもが出来てから興味を持つ様になった。男性は違うかもしれない。他の人たちは何時、政治を意識するようになったかに興味がある。
 - * 選挙には行った。各候補の政見はほとんど知らなかった。信念を持って投票した訳では全然ない。
 - * 昔は自分で考えることなく、地縁、血縁で、大体は会社で薦められた候補、例えば、松野幸泰とか武藤嘉門とかいった、地元の顔役である政治家に投票していた。最近、自分で政治や社会について考えるようになった。日本という国は、元々朝鮮半島から渡って来た人たちが作った。何時も親朝鮮派と反朝鮮派の二つの勢力があって争っていた。その争いは続いている。
 - * 多くの若者は非正規で働くことを余儀なくされている。政治の事を考える時間がない。現政権の政治から恩恵を受けている者は必ず選挙へ行く。投票率が低いほど、
- 与党には有利に働く。政権は心の底では選挙に行かない無関心層が多いことを望んでいる様に見える。
- * 親が革新勢力を支援していた。その影響で、漠然と親にならって投票していた。今は色々な立場を理解して、自分で考えるようになった。自民党が駄目というよりも、安倍政権が問題で、政権交代が望ましい。
 - * 政治に覚醒したとかいうことはない。何時も選挙に行っていた。社会の問題について、政治について考えない様にさせられている。マスコミは国政の選挙の前も後も、大事な国政の問題ではなく、吉本の問題をばかりを取り上げている。
 - * 令和新撰組の成功はアメリカのサンダースやイギリスのコーピンの成功に通じるものがある。自民党支持者は富裕層であるということにはならない。非正規労働者とか、低所得の人たちはナショナリズムに感化されやすい。韓国批判に共感して、自民党政権を支持する。
 - * 自分より直ぐ上の世代は、大学でヘルメットを被ってデモなどやった世代。自分の世代は激しい運動はしなかつ



だが、政治の意識はそれなりに高かった。自分も若い頃から選挙に行っていた。美濃加茂の市長選は例外で、嫌気がさして行かなかった。職場の若い人に聞いたところ、20代前半の方が選挙に行っていて、30代の方が行っていなかった。

- * 令和新撰組は消費税の全廃を訴えた。他の政党は10%への引き上げに反対と言っているだけで、令和ほど徹底していない。はっきりした態度が評価されたのではない。政治の現状は小選挙区制が作り出したもの。小選挙区制度を導入した小沢一郎は悪者である。
- * 無党派層は今回選挙に行かなかった。個人的には、選挙にあまり関心はないが、頼まれたら投票するという感じである。野党は政権担当能力がない。日本は聖徳太子以来、「和をもって尊しとする」の国柄である。権力を廻る政党間の争いがなじまない。
- * 以前、自分がまだ若かった頃、革新勢力に勢いがあった。変革の可能性を感じた。今は革新勢力に存在感はほとんどなく、社会全体が政治的に閉塞感に包まれている。世界的な傾向にも思われる。東欧はポスト共産主義の時代、多くの人が民主化に期待したが、現在、閉塞状態にある。ベネズエラは石油産業を国有化して21世紀の社会主義を掲げたが、今、経済が破綻し政治が混乱して、どうしようもない状態にある。新しい希望、ビジョンが見つからない。
- * 自分は素直な人間だった。以前は大体言われた政党に投票してきた。最近、自分で考える様になった。N国に何故投票する人がいるのか分からない。政見放送を聞いたが、ふざけているとしか思えなかった。山本太郎は発想がユニークで人間性が面白い。令和新撰組の成功は障害者という政治課題の当事者を前面に出して訴えたことが有権者にアピールしたということである。
- * 民主党は政権担当能力がなかったと言われるが、それはかなり誇張されている。野党に政権担当能力がないとは思わない。

* 政治に対する関心の目覚めの切っ掛けは60年安保だった。当時は高校生も政治に関心を持っていた。今の若者は受験勉強で忙しい。大学受験以外の事を本気で考えることはない。支配層は何時も人々が政治に関心を持たせないように仕向けて来た。現在も我々庶民は操作されている。

* 令和新撰組ははっきりしている。政党は沢山あるが、アピールするものを持っていない。私の若い頃、高度経済成長の時代、学生にとって革新勢力以外の政党は問題外という感じだった。冷戦後のグローバル化の反動から世界各国でナショナリズムの傾向が強まっている。中産階級が総体として弱体化して、社会全体が保守化した。閉塞感が強まる中、ナショナリズムが支持を得る。

* 全体の数パーセントの富裕層の人たちは更に豊かになって、赤字が膨らんで国家財政が逼迫して、財政再建が叫ばれる。危機感を煽って、国民向けに福祉削減等、負担増受け入れの意識の地ならしが行われる。しかし、消費税導入で、消費が低迷して国の税収は増加しない。消費税はない方がよい。

* 自分はノンポリで自ら進んでデモなどすることはなかったが、ヘルメットを被った学生に誤って殴られたことがある。授業を受けた教員に良い先生がいた。刺激を受けて、政治に関心を持つ様になった。若者の意識に対する教育の影響は大きい。

* 障害者を前面に出した令和新撰組の成功が日本の政治の分岐点になるかもしれない。

* 今30歳である。これまで1、2回投票所へ行って投票したが、何れも白紙で投票した。これという意見は持っていない。日本をこうしたいというビジョンを示して欲しい。令和新撰組の様な政党に期待したい。

* 自分は社会に完全に適応してしまっているのかもしれない。ただ損得を考えて選挙で投票している。ネットで投票が出来る様にすれば確実に投票率は上がる。本当の関心が生まれるかは別である。



- * どうせ今の政治で、この国をどういう国にするのかってことを決めるのは上の上の人たちであると思えない。自分たちが本当に関わっているという感じはない。
- * 政治においては、何よりも住民に語りかけて、直接、住民の声を聞く取り組みが大切。政治は何時も末端から始めることが必要。
- * 今の若者の頭にあるのは、一にも二にも大学受験のことで、他に大事なことはほとんど無いのではないか。
- * そう仕向けられている。余裕がないことが問題。学校でしっかりした政治教育が行われたならば、もっと多くの若者が投票に行くかもしれない。しかし、貧困に苦しんでいる下層に政治教育は大きな影響は与えないだろう。
- * 昔、底辺で社会を支える労働者は結構高い政治意識を持っていた。労働組合の影響が大きかったからだろう。
- * 昔は農業を営む家が多かった。生活の場である家は同時に生産活動の場であった。今は、農業を生業とする人はほとんどいない。家はただ消費の場に過ぎない。政治意識の低さは社会構造の変化と関わりがある。
- * NHKに受信料を払いたくないと思っている人間にとって、N国はアピールする政党であるだろう。
- * 自分に個人的に関わるがあれば、若者も投票に行くだろう。利害関係をはっきり見通すことが出来るかが重要になる。個人的に政治の恩恵を実感できれば選挙に対する若者の姿勢も変わるだろう。
- * 貧しい人たちはぎりぎりの生活に追われて政治に関心を持つ余裕がない。昔は労働組合の力が大きかった。今は市民運動と連帯する方法が考えられるが、何が頼れるか分からない。
- * 日本人の多くが地縁血縁で投票していた時代に比べれば、進歩したと言える。政治は結果を早急に求めないで長い目で見ることが必要がある。マスコミが民主党政権の仕事振りを過度に辛口で報道した。
- * 簡単に比較はできない。高度成長期は何時もそれなりの働き口があって、働けばそれなりに豊かになった。年配の人たちは若者の無関心を安易に批判する。
- * 非正規が増えて、身分は不安定で働いても生活はぎりぎり希望を見出せない。彼らのほとんどは政治に興味がない。
- * 投票率を上げるために、投票所をもっと楽しく寛げる場所にする必要がある。珈琲のサービスがあると、休憩サロンを設けるとか。
- * 人々の緩やかな連帯があって、選挙をイベントと一緒に楽しむことが出来る様なものであれば、状況は変わる。若い人たちは楽しい事ならすすんでやる。
- * 香港では若者が中心になって大々的に抗議活動を行っている。自治が認められているはずなのに、議会の議席の半分は中国政府が指名する仕組みになっていて、結局、中国共産党の言うなりになってしまう。そうした不満が背景にある。
- * 市民の一人ひとりが社会を少しでも良くしようと行動を起こす必要がある。自分はそれなりに生活出来ているからと、不満はあっても何もしない。ぬるま湯に浸かっているってこと。
- * 岐阜市で最近、中学生が飛び降り自殺した。イジメがあったのではと推測するが、真相が全然解明されていない。これを何としても明らかにしたいと思う。
- * 政党は生活との関わりが明確な具体的な公約を掲げなければならない。抽象的な理念を掲げるだけでは、どうせ何も変わらないと政治を信じていない人たちを動かすことはできない。政府の安保法制を批判して、平和の大切さを訴えても、政治に無関心な人たちの目に自衛隊による紛争地域での活動が彼らの生活に関係がある様には見えない。しかし仮に政府が徴兵制の導入を提案するようなことがあったら、ほとんどの若者が自分の問題として真剣に考えて、抗議活動や投票の形で政治的な意志表示をするだろう。政治は生活との関わりが明確な政策の実現であらねばならない。
- * 今の様な、主権者にとって選挙で投票することが政治参加の唯一の権利行使である、代議制の政治に限界を感じる。有権者は政治劇場のパフォーマンスの単なる消費者にすぎない。政治家と大多数の有権者の間には何の関係も無い。いわんや意見を聞かれることはない。正

直、言葉も交わしたことも無い個人的に全く知らない候補者に投票することに抵抗を感じる。

*若者の投票率が低い。もし若者が投票に行っても意思表示をすれば、政治は変わるという。しかし少子高齢化で若者の数は全体として少なくなっている。反対に、人口構成における高齢世代の比重が大きくなっている。だから、政治を変えることができるのは上の世代であって、

若い世代ではない。

*参院選の投票率は過去二番目に低い48%だった。無党派層が選挙に行かず投票率が低ければ、熱心な支持者の基礎票が多い政党が勝利する結果となる。だから、政権政党の自民党には、本気で出来る限り多くの人たちが選挙に行くように働きかける理由がない。

意見交流の最後に・吉田千秋

*日本の選挙は確かに盛り上がりや欠けています。日本は若者を一人前の人間、立派な大人に育てる為に必要な社会教育についてしっかり考えて来ませんでした。学校では「教育の政治的中立性」の原則が大きな障害となってきました。かつて珍しくなかった高校生の政治集会参加は、1969年の文部省通達で禁止になりました。主権者教育においては、政治について意見交換することは必要不可欠なことです。

*学校での主権者教育だけでなく、労働運動をはじめとした社会運動は若者たちにとって大きな影響を与えてきました。だから労働運動の退潮の影響は大きなものだったと言えます。いま労働者は上中下の三段階に階層化して、一つになることができなくなってしまいました。最大の労働組合団体である「連合」は、アンダークラスの人たちの利益を擁護する運動にはなっておらず、本来あるべき姿ではありません。今後、労働者及び労働組合は市民運動と協働して行くことが必要です。

*しっかりした社会教育、主権者教育の環境作りが本望に望まれます。表現の自由、思想の自由は、政治の主体に欠かせない主権者の基本的権利に属するものです。しかし、この自由は前提として意見を形成する自由が保障されていないと意味を成しません。意見を持つことがなければ、思想信条の自由、表現の自由は行使し得ないからで

ず。教育は、何が正しいのか、何が価値のあることなのか、各人が自分で考える力を養うことを助ける様なものでなければなりません。

*最近選挙期間中、NHKの政見放送の様な各政党の一方的な政治広告だけあって、直接政治家の間で活発に意見が交わされ議論されるということがなくなってしまいました。以前行われた候補者による立会演説会も何時の間に行われなくなってしまいました。政治はもっと生活、人生に直結して、多数の人々が共有する問題を取り上げる必要があります。授業料を廃止するといった当事者に届く様な具体的な政策とその実現策が示されなければなりません。個人的には名称の「令和」「新撰組」に違和感を禁じ得ませんが、「令和新撰組」は一つの問題を取り上げて成功しました。分かりやすくして乗りやすいので、短期間に多くの人に興味を持って貰うことができたのだと思います。

*どうせ何も変わらないと決め込んで、現実から目を逸らして、自分の世界に閉じこもってしまうのは早計です。生活に直接関わる現実の問題について認識を共有して、多くの人に知って貰う活動に関わって行くことが重要です。私は希望があると信じています。政治や社会の問題についてまたいっしょに考えましょう。

参加者の感想

○若者の無関心、選挙の仕組みなど、いろんな要因でシステムがズタズタになっていることを知った。そんな中で、上手なやり方で票を集めた党派もあって、自分の実生活にも活用できないかと思った。(りょうま)

○たいへん楽しい内容でした。最近おもしろい諺(?)を聞いたので記しておきます。『起きて半畳寝て一畳、天下取っても50年』。(安永)

○「ものの見方、考え方は重要である。」といつも思っている。今回の参議院選挙の結果についても然り。「物事を見る場所によって違ったものに見える!」。「民意を無視した安倍首相の見方は独善以外の何物でもない。」「与党の勝利と言えども、改憲の権限なし」とは、国内外の新聞報道。安倍政権は「改憲ではなく、年金・医療・介護、景気や雇用などの改善要求」という民意を捻じ曲げ、民意の「外」に立っている。とんでもないことだ。



毎日猛暑が続くが、今日も「ワイワイがやがや」、この「カフェ」に「反自民」・「反権力」の声をあげ、参加される御仁には共感を覚える。参議院選挙の結果としては、沖縄と秋田県での自民敗北は、未来への布石だと感じる。しかし、今後の問題や課題も多い。多様な意見が自由に飛び交い、暑さを吹き飛ばす楽しい一時であった。(MS)

○今回の参議院選挙で特に印象に残ったのは、マスゴミの投票日直前の吉本興業に関する過剰報道と令和新選組関連情報の完全無視です。

このことは、マスゴミが完全に政権側で、今の日本の支配階級の宣伝機関であるということを示していると思います。選挙後、内田樹さんが「なぜこんなに長く安倍政権が続くのか」というマスゴミの質問に対して、日本人の知性と特性の劣化が原因として考えられるが、特にその中でもマスゴミの劣化が酷いと答えていたのが面白かったです。(たなか)

○22、23 歳ころ瑞浪での仕事の帰り夕焼けを車内から眺めながらふと考えた。だれにも等しい・なにかそんなのあるのか。俺のきょう一日の時間と、きょう仕事を依頼したおれよりは裕福に見える依頼者のきょう 一日の時間は等しいのではないか。時間は等しいのになぜ所得が違うのか。まだ、いまも納得のいく理屈にはいたっていない。今回のテーマの選挙にしても選挙権を有する者は、所得や性別・容姿・理解力(まだある)に格差があっても等しく1票である。なぜ、このような等しい権利を行使しない者が多数なのか、納得のいく理屈にはいたっていない。おれは、悔しい。日常、老若男女に会うと、とにかくこの等しい権利を行使するよう、話すようにこころがけている。あせらず気長に、気づいてくれる者が増える事を信じて話すようにしている。

生まれながらにして貧乏人のボンボンこうこうぶんわへい

ファシズムは指導者の言動が早く可視化される。わりやすい。一部の者達の利益に国民が連帯責任を負うことになるが気づかない。不動産の売買や就職時に連帯責任を負うことをいまだに求められるが重い負担だ。

多数の国民はプロパガンダに気づかない。民主主義は指導者の言動が挫折する事や可視化に時間がかかる。それでも民主主義を信じる。(こうこうぶんわへい)

○話が投票率の低さに及び、その諸要因も論議の中で深まったが、核心はどこか？ 自分の投票を振り返ってみると、選挙に行かなかった経験は一度もない。もちろん日本にいなかった時を除いてだが、記憶では全部行っている。どうしてだったか？ 多少なりとも政治に関心を持つようになった高校時代が、60年安保闘争の余波が残る時代で、春闘などのストライキもしばしばあり、公害反対運動なども新聞を賑わせていた。だから、大学に入れば当然のように政治や社会に関心を持ったし、学生運動が目の前で燃えていた。選挙権を得た20歳の私に、投票に行かないという選択肢は無かった。

70年代はまだしも80年代以降以降「日本の世の中はおかしい！」と行動していた人が、労働運動や市民運動でも次第に減った。90年代以降は国会で問題法案が通される時だけ反対運動が散発的に盛り上がる、そんな市民の政治風景が普通の日本になってしまった。

若者が投票に行かない問題は、世代の問題のようにも見えるが、時代の変化に起因する問題だ。長い時間をかけて広がってしまった市民と政治との距離は、一朝一夕には解決できない。そして、政治に無関心な市民が多いことを利用して、選挙でアベが勝つ自民党の戦略が功を奏する今日という時代がある。

理屈の上ではもともと市民のものであるべき政治、その土台をどう据えなおすか？ 吉田先生も指摘されたが、じっくりと楽しみながら、社会の問題に自主的にコミットしていく市民が先ず増える、ことかな？

(フィリピンウォッチャー)

○政権担当能力として野党には力不足を感じざるを得ません。でも、憲法9条を改正することは、かなりの危険を孕んでおり賛成はできません。

そうした点から参院選の結果はある民意が反映された結果だったと考えます。(ryosa)

○一番はっきりしたことは、安倍首相があれほど改憲を訴えたことに対し、国民は3分の2を与えず、改憲を退けたことではなからうか。これは政治の右傾化が進む中で、世論の健全性を示すもので、ここに依拠して若者への働きかけの運動を前進させねばならないだろう。その若者論で、今の若者は未来に希望が持てないから、過去の伝統的日本像(あのナショナリスト達が描く)に回帰しようとするとの論があるが、そうであればこそ、真実に向き合う勇気を社会全体に涵養しなければならないと思う。

(ひらみつ)

<世界一週貧乏旅 その2> 「イスラエルとミサイル」

突然、サイレンの音が鳴り響きました。

初夏のエルサレムは夕方でも暑く、その日の空は晴れ渡ってカラカラに乾いていました。僕はサイレンといえば救急車や消防車のイメージですが、空襲警報の経験がなくとも、その音には街になにか危険が迫っていると感覚的にわかるものでした。

僕がイスラエルへ行った2014年7月は、イスラエル国防軍とイスラム原理主義組織ハマスとの衝突がものすごく激しくなっているときで、ニュースでも話題になるほどに国内情勢は不安定な状態でした。

イスラエル滞在2日目、突然のサイレンが鳴り響き、僕はどうしたらいいのかわからずおろおろしていました。状況はまるでわからないものの、なぜか大きな口笛が聞こえてきて、見ると飛び跳ねたり、はやし立てて、ひどくはしゃいでいる現地の若者たちがいました。不吉なサイレンの音と若者たちの口笛はひどくミスマッチで、僕はただただ不安で、そして困惑していました。

その時突然、「ドンッ!」と、大きな花火が破裂した時のような音と軽い地響きがして、僕が「うおっ、えっ?」などと驚いている間にサイレンも鳴り止み、街は何事もなかったように元どおりでした。

意味がわからず、僕は近くにいた人をつかまえ尋ねました。「いったい何が起きたの?」「撃ち落としたんだ」「えっ何を?」「ミサイルさ」 そんな答えに僕は戦慄しました。

後に調べたところ、それはハマスがエルサレムへ向

かって打ち込んでいるミサイルで、エルサレムは日常的に「ミサイルが飛んでくるそうです。しかし、イスラエル側も黙ってミサイルなんて落とされるわけにいかないの、
「アイアンドーム」と呼ばれる防空システムを配備しており、ミサイルが落ちる前に迎撃してしまうそうです。そのシステムはかなり優秀で高い迎撃率を誇るため、現地の人たちからしたら例えサイレンが鳴っても「まあ今回も大丈夫でしょ」と口笛を吹いてはしゃぐぐらいの余裕があるようです。

日常的にミサイルが飛んで来て、それを日常的に撃ち落とす。この場所での当たり前は、平和に慣れ染まっていた僕へ、「当り前の安全」について考えるきっかけをくれました。

(カモノハシ タニ)



<びっくりWORLDぎふ No.1>

岐阜市に引っ越してまもなく4年。岐阜のおもしろさ、底知れぬおもしろさにまいった参った! 足元の地質・地層にはじまり、虫・鳥・草木に山々に、北斗七星・夏の大三角形などの星が輝く夜空、そして過去からの人の営みが創ってきたもの、遺跡に古墳・地名・神事・芸能に文化財とよぶ建物や品々、記録された古文書類…それらのものが身近にあり、より深める手助けとして充実した社会教育施設があり、各種の講座が公や市民によって営まれている。県庁所在地ということで情報を得やすい環境にもあり、現代の文化にふれることも容易だ。“びっくりWORLD ぎふ”と題して、都市にはない地方の豊かさを走り書きしてみよう。

「極楽前」の世界

一番最初に心奪われたことはバスを降りて見た光景。100mほどの高さのある山、その山肌をみるとギョ!! 堅そうな岩が縦縞に波立ち、木々がへばりついている。ふもとに流れる川の水は澄みわたり、川上に目をやれば、

山々が連なる風景をのぞむ。その岩石はチャートといい、金華山もそうである。今から2億9000万年前から1億4600万年前にいたる時をかけて、¹にも満たない放散虫の化石がゆっくり堆積したことでできた地層だ。恐竜時代よりも前の地球を見ている。それだけでわくわくする。4年たっても大好きな風景のひとつだ。

家の裏には「走る宝石」といわれる雉が住み、「空飛ぶ宝石」のカワセミ、「焼酎いっぱいグビー」とか「東京特許許可局」と啼くホトギス、三田洞の森では「月日星ホイホイホイ」(→ともに、そんなふうには聞こえやしない)と啼く三光鳥が巣をつくり、キツツキ(コゲラ)もコソコソと働いてる。まもなく北に帰っていくカモたち、ヒナたちは大人のカモが丸くなって見守るなか飛び練習をする。護岸をよちよち登り、エイ!と飛び、飛べないヒナはズルズルとすべてポチャンと川に落ちる。春になるとそのあたりにキツネの一家が登場する。近くに畜産センターがあり、豚コ

シラ発生第1号のイノシシが用水で死んでいたために、立ち入ることはできないが、早春にはカンアオイにギフチョウが舞い、今ごろはカタクリの花が咲いているだろう。まもなく桜が咲き、山には山桜が咲く。「マンガ日本昔話」風の世界となり、私は「極楽前」と呼ぶ。

私は今、里山と田んぼ・柿畑のある地域で暮らしている

から、日々、自然の営みに接することができありがたい。県庁が移転し新しくまちが形成された地域では、残された自然は少ないかもしれない。けれども、ちょっと自転車で動き回ると、私が体験している世界に会えるよ。そこが岐阜の素敵などころのひとつだ。
(佐藤尚子)

2019年後半 **哲学カフェ、第23期の予定**

場所 岐阜市八代3丁目27-8「ふれあいスペース」
例会は19:00～21:00です。

第134回例会 8月8日(木)	「参議院選挙の結果から何を学んだのか？」 * 7月21日の参議院選挙の結果、自公政権与党は過半数を得た。だが、最大の焦点だの2は維持できなかった。この選挙から私たちは何を学んだのか。	
第135回例会 9月12日(木)	「老人も若者も信頼できる年金制度とは？」 * 「100年安心」と言われた現行の年金制度は維持が危ない。年金でしか生活できない老人たち、将来に不安を抱える若者たち。両者が信頼できる仕組みは可能か	
第136回例会 10月10日(木)	「東京五輪は一体何のため、誰のためのものか？」 * もともとウソで始まった東京オリンピック。「節約に努める」との約束も反故にし、一時の景気拡大、儲けのための、巨額投資。一体何のため、誰のためのものなのか	
第137回例会 11月14日(木)	「子どもの虐待が増えているのはどうしてか？」 * 最近子どもの虐待が増えている。どうしてこんなことになったのか。障がい者への差別、いじめにつながる人権軽視の大きな流れの一端なのか。真剣に考えてみたい。	
第138回例会 12月12日(木)	「日本の男女平等はどうして進まないのか？」 * 参議院選挙で女性の当選者は18名で過去最高タイ。でも、世界ランク130位。2018年調査で、総合指数で世界110位。どうしてこんなに進まないのだろう。	

哲学カフェの運営資金の協力 も、よろしくお願ひします。 □座記号・□座番号 00810 1 142912
加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫
「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中 !! <http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/>
または「哲学カフェ岐阜」で検索

わいわいがやがや
アラカルト



- ★この世の中、何が問題なのかと考えるに、結局「政治の問題」なのだと思うってしまう。
- ★家庭(DV)の問題から、地域と地球の環境問題、老人や子供の福祉の問題、非正規労働者の待遇と外国人労働者の人権の問題、学校のいじめの問題とそれに対応している教育行政サイドの問題、各省庁の不幸事の数々など、全て政治に関係してくるのではなからうか？
- ★最近気にかかるのは、犯罪を犯した「被告」がしばしば不起訴処分になることである。その場合、検察側は「理由」を全く開示していないが、実に不愉快で不可解である。
- ★国外に目をやれば、ホルムズ海峡では、日本国籍のタンカーが攻撃された。
- ★アメリカのトランプ大統領はイラン制裁の有志連合の呼びかけをしており、日本にも戦雲が漂ってきた感じがする。さらに、トランプ大統領は、公然と人種差別発言をしているが、少し前なら考えられないことで、社会も相当落ち込んでいると思わざるを得ない。
- ★人種や国籍を問題にしない時代がやってくるのはいつの日であろうか？ 我々日本人は「憲法9条を堅持し、平和を愛するアジア人種」を目指すことはもちろん、さらに高次の「地球人」(Earthian=アーシアン)としての生き方を考えるべきではなからうか？
- ★今求められているのはこのような「グローバル思考革命」ではないだろうか？ そのためにも、「政治の問題」は放置できないのである。
(島田幹夫)